

【3年間の運営方針】	【3年後のありたい状態】
<p>1. 人材育成、教育の方針</p> <p>＜教育方針＞</p> <p>◎キリスト教主義に基づく全人教育と“Mastery for Service”の具現化 初等部聖句 「幼子はたくましく育ち、知恵に満ち、神の恵みに包まれていた」ルカによる福音書2章40節</p> <p>＜4つの柱＞</p> <p>◎聖書・礼拝 礼拝や聖書の時間を通じて、人を思いやる気持ち、小さなことに感謝できる心を育む。</p> <p>◎国際理解 英語力を高め、コミュニケーションを楽しみながら、異なる価値観の獲得をめざす。</p> <p>◎全員参加・理解 みんなで主体的に問題解決を図りながら、確かな学力の獲得をめざす。</p> <p>◎本物 文化、スポーツ、芸術、自然に触れる機会を通じて、豊かな感性を育む。</p>	<p>＜2024年度のありたい状態＞</p> <ol style="list-style-type: none"> キリスト教主義に基づく全人教育と“Mastery for Service”の具現化 すべての教員が「キリスト教主義に基づく全人教育」でめざす子ども像を具体的にイメージし、「“Mastery for Service”を体現する世界市民」の育成につながる教育を実践している。 聖書・礼拝 日常生活の様々な場面で、他者に関心を持ち、思いやりの心を注ぐことができる子どもが育っている。 国際理解 英語が好きになるとともに、英語スキルが十分に定着する授業が行われている。 全員参加・理解 すべての子どもの思考をアクティブにすることで、確かな学力の定着をめざす授業を展開している。 本物 直接的に人、社会、自然に関わる教育プログラムが系統的に行われている。
<p>2. 児童・生徒獲得の方針(箇条書きもしくは文章で)</p> <p>◎魅力ある学校づくり (上記参照)</p> <p>◎広報活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入試イベントの充実 ・幼児教室訪問継続 ・インター系幼稚園訪問拡大 ・WEBによる広告の拡大 <p>◎入試方法変更</p> <ul style="list-style-type: none"> ・B入試の内容変更 	<p>＜2024年度のありたい状態＞</p> <ol style="list-style-type: none"> すべての教員が「キリスト教主義に基づく全人教育」における4つの柱を具体的にイメージしている。 すべての教員が、志願者確保に高い関心を持ち、積極的に広報活動に協力している。 A入試、B入試の実施
<p>3. 中期的な課題(箇条書きで)</p> <p>＜フェーズ2(2022～2024)＞</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 志願者の確保 2. 英語教育の充実 3. 算数教育の充実 4. 教育課程の改善 5. 配慮が必要な児童へのサポート 6. 教員が欠けた場合のセーフティーネット 7. ICT教育の充実 8. 初・中・高間での情報及び学力観の共有 	

【重点施策】 (中期的な課題を解決するための重点施策を箇条書きしてください。「中期総合経営計画」の実施計画がある場合は、第1順位にしてください。優先順位の高いものから5つ程度)	【中期総合経営計画 実施計画】として取り組むものに ○
① 総合学園の「見える化」と関西学院アイデンティティの浸透	○
② 志願者の確保	
③ 英語力の向上	
④ 教育課程の改善	
⑤ 配慮が必要な児童へのサポート	
⑥ 算数教育の充実	
⑦ ICT教育の充実	

【3年間の取り組み状況(中期計画)を測る指標】

- ① スクールモットーの認知度・共感度
- ② 志願者数
- ③-1 英語授業への関心
- ③-2 英語授業での理解度
- ③-3 英語の習得
- ④ 教育課程の改善
- ⑤-1 不登校児童の割合
- ⑤-2 友達や教師との信頼関係
- ⑤-3 カウンセリング体制
- ⑥-1 算数授業への関心
- ⑥-2 算数授業での理解度
- ⑥-3 算数の習得
- ⑦-1 教師のICT活用
- ⑦-2 児童のICT活用

【目標や実績を踏まえた次年度に向けた展望】(2024年3月時点)

・本年度は昨年度より志願者が増加した。これは昨年度より PR 行事の開始時期の 1 か月以上前倒しし、全ての行事を対面で制限なしで行えたことが良い影響を与えている。また、A 日程入試を県内他校と日程をずらしたことにより、併願志願が可能になり、志願者の選択に幅ができたことも影響している。

・英語の学力向上については、概ね昨年度と同じ高水準の学習を保っていると考えているが、コロナ渦のため 6 年生のカナダコミュニケーションツアー(CCT)が 2019 年度から実施されていない。本年度も代替教育として東京アクティブツアー(TAT)を実施した。来年度はいよいよ CCT が再開できる見込みである。カナダのネイティブの英語に触れ、ホームステイすることにより異文化との交流が可能となる。本校の教育の 4 本柱のひとつ、国際理解(Global)がさらに充実したものになる。また、本年度の英語検定の結果は 3 級以上の合格者が 71.4%と大幅に伸びた。英語教育の成果が、ここに表れていると考える。

・今までも、中学部・高等部と連携し、生徒指導面の引継ぎや初等部卒業生の成績調査などを実施してきたが、来年度からは、小・中・高と共通のシステムを導入しさらなる連携強化を図っていく予定である。

<2. 学校評価の取組みにより明らかになった課題>

・児童アンケート「学校は楽しいですか」に肯定的回答は 89.0%と高い比率にもかかわらず、児童アンケート「困ったときに、友達や先生 に相談できますか」の設問の肯定的回答 52.7%に減少している(昨年 58.0%)。一昨年から引き続き減少している。このギャップは何か、考察がまだ不十分である。

・保護者アンケート「初等部の教育に満足している」では肯定的回答は 91.4%が 90.7%と微減であるが、90%以上

は維持できている。これは学習面、生活面どちらがより高いのかあるいは両方か考察する必要がある。来年度以降はより家庭と協力し、ちょっとした児童の変化も察知できるようにアンテナを張りめぐらし、安心して、学校生活を送れるような環境づくりが必要と考える。

・算数・英語の「授業は楽しいですか」より「授業はわかりやすいですか」の方が肯定的な割合は高くなっている。これは児童が教科の好き嫌い勉強するしないは、別ものと考えているからと思われる。また、教師集団が研修と研究を重ね、ひとり一人の個を活かした授業を展開していることもその一因である。

・キリスト教教育を土台とする教育や“Mastery for Service”を体現できる土台作りの方針は児童、保護者ともに理解してもらっている。教育課程・学習指導・学校行事については、コロナ禍以前の状態にほぼ戻った。毎日の礼拝も全校生がチャペルに集い、讃美歌を歌い、聖書の話に耳を傾けている。初等部らしい1日の始まりが、できている。

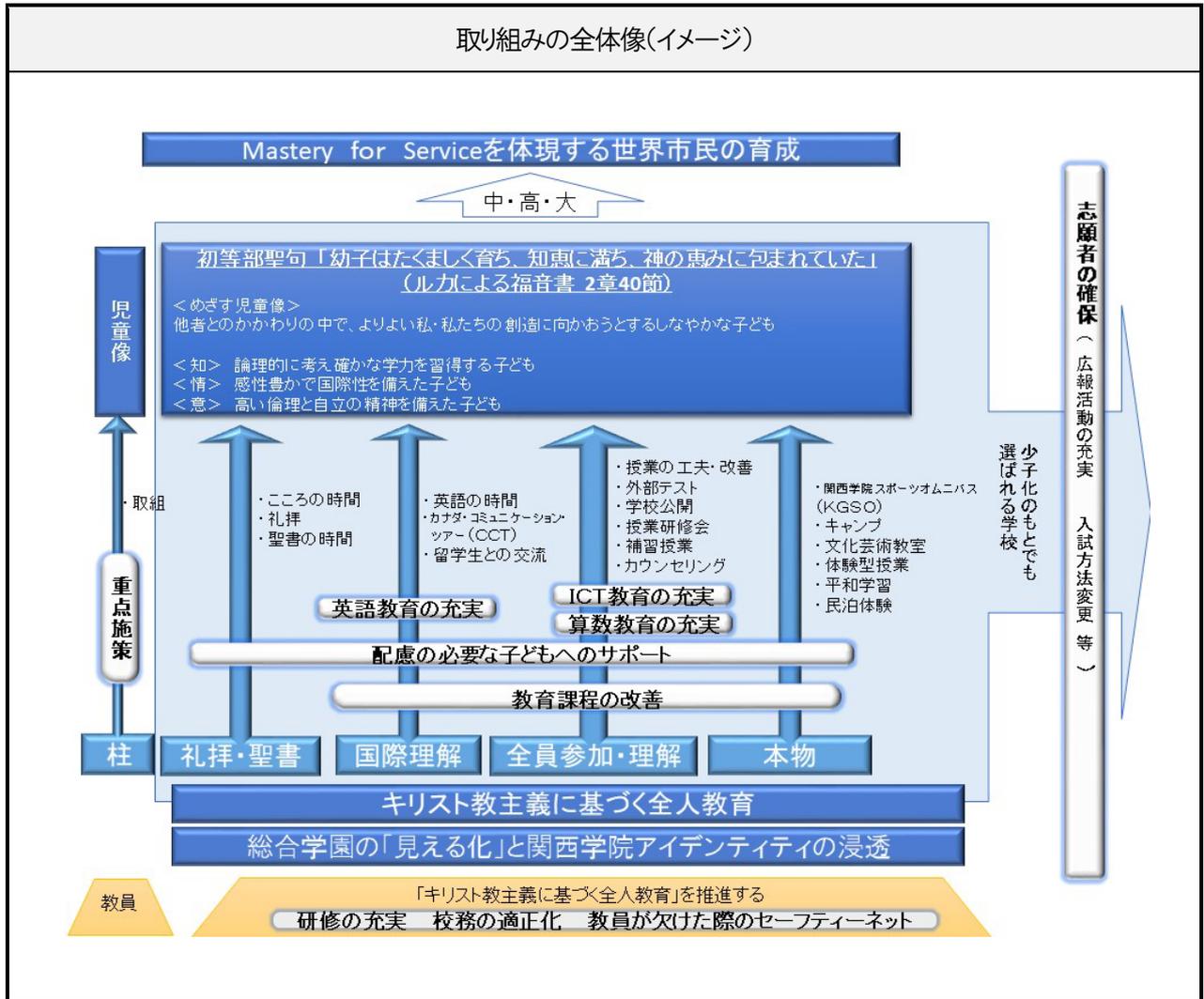
・研修については、今年度、「“Mastery for Service”を体現～個が活きる関わり合い～」を研究テーマに研鑽を積んできた。学校公開会では多くの先生方が全国から集まり、研修を共にした。日ごろの成果が十分に発揮できた学校公開であったと自負している。来年度は現状に甘んじることなく新しい研究テーマのもと、さらに研究を深めていく。そして、その成果は児童に還元されなければならないと考える。

<3. 上記1, 2を踏まえたフェーズⅡ(2022・2024)に向けた展望>

・志願者増へ向けて、さらに入試行事の前出し実施を行い(すでに行っている)、情報発信の拡大や入試行事の充実を図らなければならない。大阪市内をターゲットにした幼児教室へのPR活動を行い、志願者の広域化を図っていく。

・これからはコロナ禍以前の状態にもどると思われるが、全く同じ状態になるとは思わない。特にIT分野の進歩には驚く場面が多い。最近ではAIの活用が盛んとなり、教育分野にも浸透してきている。このような時代の変化に対応できるように、教師集団もアップデートをしていかなければならない。IT教育にも力をいれ、学習計画にも取り入れ、その中でより質の高い教育活動を児童や保護者に提供し、児童や保護者からの信頼を深めたい。

取り組みの全体像(イメージ)



以上